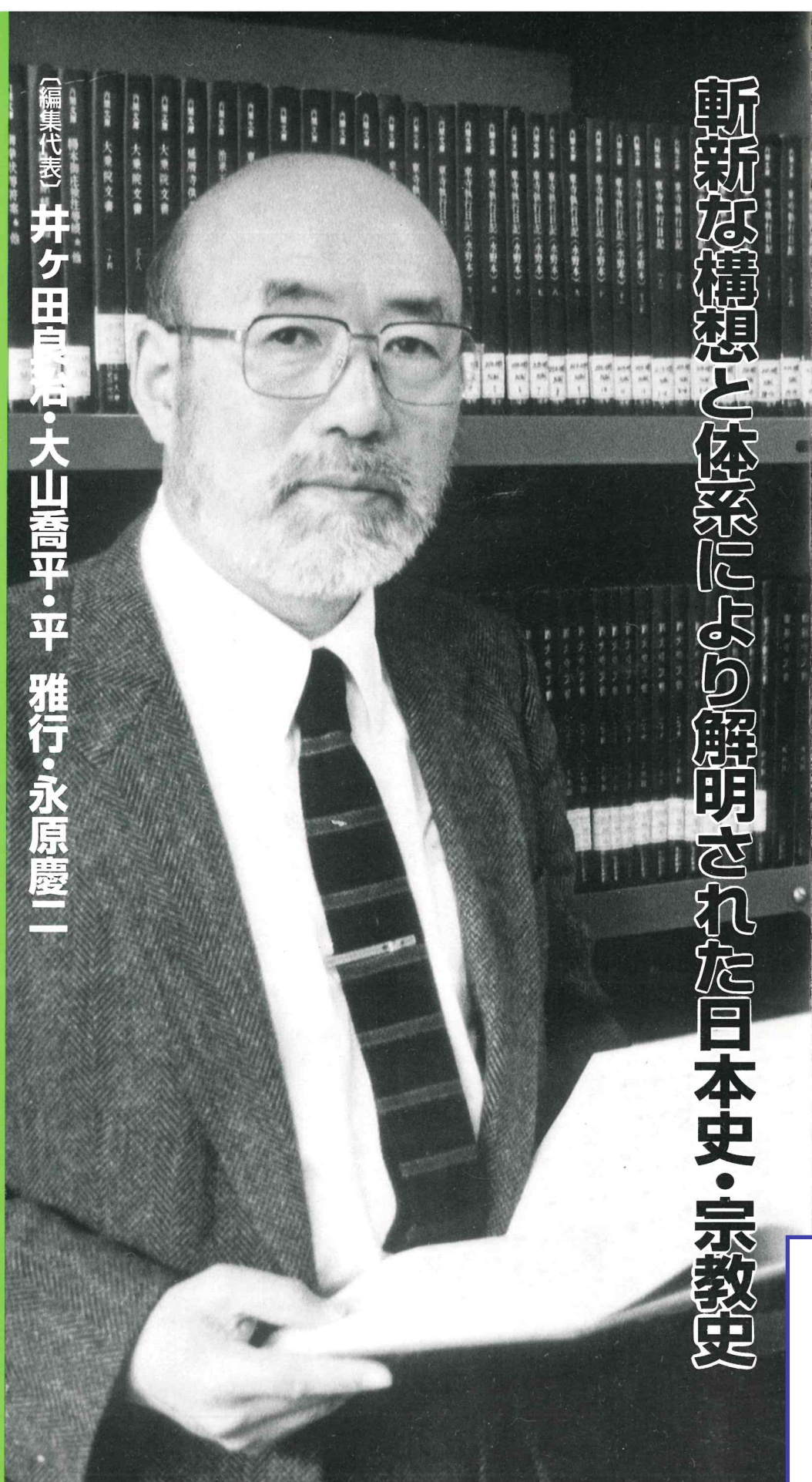


黒田俊雄著作集

全8巻
法蔵館

〔編集代表〕井ヶ田良治・大山喬平・平雅行・永原慶二

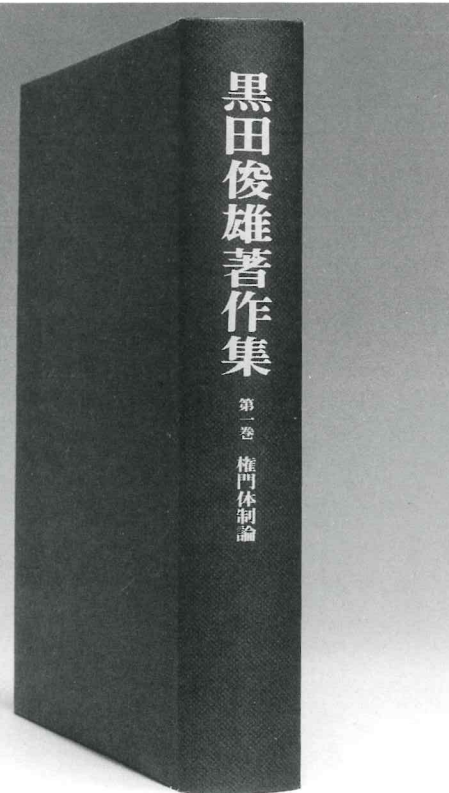


斬新な構想と体系により解明された日本史・宗教史

 **KinoDen**
Kinokuniya Digital Library

KinoDen 配信開始!

◆編集委員
井ヶ田良治・石田善人・井上寛司・大石雅章・大隅和雄・大山喬平・
河音能平・平雅行・田中文英・永原慶二・名畑崇・藤井学



〔特色〕

- 厳選された論文（『日本中世封建制論』『日本中世の国家と宗教』『日本中世の社会と宗教』『荘園制社会』『現実の中の歴史学』『王法と仏法』『歴史学の再生』等々の単行本に収められた論文を含む）を**八つのテーマに新たに再構成し**、集大成する。
- 各巻に、日本史研究の第一線の編集委員が丁寧な**解説**を付し、論文成立の背景を探る。
- 各巻に**索引**を付し、人名（歴史上の人物）と事項（地名・寺社名・重要史料名を含む）を最大限に採録する。
- 第8巻に、**著者略歴・執筆論文一覧**を掲載する。
- 各巻に多彩な執筆陣による「**月報**」を付し、著者の人間性と学問の背景に迫る。

〔読者対象〕

- 日本歴史（特に日本中世史・日本仏教史、日本宗教史）、仏教文学、芸能史、美術史、建築史等々の読者、研究者。
- 大学研究室、公共図書館、学校図書館、寺院・神社など。

紀伊國屋書店
デジタル情報営業部

〒153-8504 東京都
目黒区下目黒 3-7-10

TEL:03-6910-0518
FAX:03-6420-1359
ict_ebook@kinokuniya.co.jp

法蔵館

〒600 京都市下京区正面烏丸東入
TEL075(312)0257 FAX075(371)0257
振替01090-1112111

全8巻セット KS00000384

同時アクセス1（本体価）**¥154880**

同時アクセス3（本体価）**¥309760**

各巻分売可。詳しくは弊社営業担当までお問合せください。

一九九三年一月二六日、黒田俊雄氏は六七歳の生涯を閉じた。その日、私たちは、激動する時代の中に屹立する一人の歴史家を、そして鮮やかな批判精神を喪った。雪の吹きすさぶ中、暗澹たる想いで私たちは黒田氏の棺を見送った。それから一年、今、私たちはここに『黒田俊雄著作集』全八巻を世に問おうとするものである。

周知の如く、黒田氏の業績は誠に浩瀚なものがある。農民的小経営に対する荘園領主支配を、封建的生産様式の基軸とする荘園制社会論。天皇を中心に、公家・武家・寺家など諸権門の相互補充によって中世国家が構成されていたとする、権門体制論。中世宗教の基軸を顕密仏教に求め、その構造と展開を論じた顕密体制論・寺社勢力論。さらに中世身分制論や南北朝時代論・神国思想論など、黒田氏は多方面にわたって斬新な構想を精力的に提起し続けた。しかもこれら諸論考が、有機的な体系性を保持している点に、『黒田史学』の大きな特徴がある。

私たちは今、冷戦構造の終焉と宗教・民族紛争の激発という、世界的な転換期に遭遇している。その中であつて私たちは、ともすれば歴史に対する見通しを見失いつつあるのではなからうか。それだけに、柔軟で誠実でイメージ豊かな黒田俊雄氏の業績は、なお繰り返し、ひもとかれなければならないだろう。

日本史・仏教史研究者にはもちろんのこと、本著作集が一人でも多くの読者に迎えられ、未来への指針となること願つて止まない。

編集委員



神奈川大学短期大学部教授 網野善彦

自己認識学としての黒田史学

激動する現代社会において、人類の誤りなき前進に寄与するために、今ほどわれわれ日本人が正確な自己認識を求められている時期はこれまでになかったといつてよい。とくにその中で、社会、民族、国家の問題があらためて根底から問い直されており、それに応えるためにはとくに思想・宗教・文化に対するより深い理解が必要とされている。

しかし、一九六〇年代以降の歴史学において「民族」の問題を取り上げることが、ときに忌避されたとすらいいうる状況にあつたが、その間にあつて黒田俊雄氏は天皇・神国思想から非人に及ぶ広い視野からこの問題に正面から取り組もうとした少数の史家の一人であつた。もとより黒田氏の研究は思想・文化にとどまらず、社会、経済、生活等の分野まで広範に及び、その中世社会論、中世国家論が六〇年代から七〇年代にかけての中世史研究の二大潮流の一方を代表する体系的な研究であることはいふまでもない。それを正確に史学史の中に位置づけることは今後の課題であるが、われわれは黒田氏の体系を踏襲するのみでなく、その幅広く個性的な歴史に対するとらえ方から深く学び、これからの歴史学の発展に生かすことが必要であろう。この度の著作集の刊行は、こうした黒田氏の豊かな研究の全貌を余すところなくとらえうる機会を広く世に提供する企画であり、その完成を心から期待してやまない。



京都大学教授 朝尾直弘

総合的な展望をもつた中世史像

「わたしは黒田シューレです」。一九六〇年代の末頃、たまたま新幹線で乗りあはせた黒田さんに「君は中世をどう観ているの」ときかれ、言下にこたえた。当時、黒田さんは荘園制社会における非「領主制」的展開を説き、主流の領主制理論に抗し、論争のさなかにおられた。お世辞をいったわけではない。近世史の研究は前提となる中世を念頭におかないではできない。領主制理論のなかにはさまざまな学説があつたが、領主制理論そのものを批判したのは黒田さんただ一人であり、その議論がもつとも包括的で、目くばりがきき、バランスがとれていた。荘園制と領主制を同一歴史段階にとらえる黒田説は、そのうえに構築された権門体制論や神仏観念のとらえ方とともに、近世の成立過程研究にもつとも示唆的であり、豊富な展望をもたらすものであつた。こんにち中・近世史の通説は多くその延長上に成立している。つねに、現代を見すえ、経済から思想・文化まで総体を視野にいれ、微小な史実を見逃さず鋭いメスをいれる、真摯なその学風がこのことを可能にした。というようない方は、黒田さんの好むところではないだろう。「また朝尾君が」という声が聞こえてくるような気がする。しかし、私は学生時代に一向専修と本地垂迹の論文を読み、啓発を受けて以来、ずっと黒田ファンであつた。ファンが多少の熱気をこめて語つたとしても、許してもらえないのではなからうか。

全巻の内容

第1巻 権門体制論

I、権門体制論の提起と展開 II、権門体制論の基本問題 III、権門体制と天皇（収載論文）中世の国家と天皇／鎌倉時代の国家機構／鎌倉幕府論覚書 他

第2巻 顕密体制論

I、顕密体制の展開 II、日本仏教の展開 III、顕密体制論の立場 IV、宗教史研究の方法（収載論文）中世における顕密体制の展開／荘園制社会と仏教 他

第3巻 顕密仏教と寺社勢力

I、顕密仏教と知識体系 II、顕密仏教と鎮魂 III、寺社勢力の展開 IV、顕密仏教の周辺（収載論文）中世的知識体系の形成／鎮魂の系譜／中世寺社勢力論 他

第4巻 神国思想と専修念仏

I、中世国家と神国思想 II、顕密仏教と一向専修 III、親鸞と蓮如（収載論文）中世国家と神国思想／鎌倉仏教における一向専修と本地垂迹 他

第5巻 中世荘園制論

I、荘園制と封建制 II、荘園制社会論 III、荘園制とアジア的社会構成（収載論文）荘園制の基本的性格と領主制／荘園制社会／日本中世の封建制の特質 他

第6巻 中世共同体論・身分制論

I、村落共同体論の展開 II、中世身分制の諸問題（収載論文）中世の村落と座／村落共同体の中世的特質／中世の身分制と卑賤観念 他

第7巻 変革期の思想と文化

I、建武政権と南北朝時代論 II、中世の歴史観 III、中世文学の人間形象 IV、中世文化史序章（収載論文）悪党とその時代／愚管抄と神皇正統記 他

第8巻 歴史学の思想と方法

I、歴史学の思想 II、教科書問題 III、地域史と文化財 IV、史稿雑々（収載論文）転換期の歴史学／「国史」と歴史学／教科書裁判の証言 他（但し、表題は変わることがあります）

著者略歴

- 一九二六年 富山県庄下村に生まれる
- 一九四八年 京都大学文学部卒業
- 一九五五年 京都大学大学院入学
- 一九六〇年 神戸大学教育学部専任講師
- 一九六一年 神戸大学文学部助教授
- 一九六七年 大阪大学文学部助教授
- 一九七五年 歴史科学協議会代表委員
- 一九八一年 大阪大学文学部教授
- 一九八三年 日本学術会議会員
- 位授与
- 一九八四年 大阪大学文学部長
- 一九八八年 日本学術会議第一部長
- 一九八九年 大阪大学を定年退官
- 一九九一年 大谷大学文学部教授
- 一九九三年 大谷大学特任教授
- 逝去（六七歳）